
凡人の冒険

ニガ屋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

凡人の冒険

【著者名】

ニガ屋

N6565M

【あらすじ】

とある普通の高校生がいきなり異世界に飛ばされた！？

飛ばされた先の世界はさながらRPGの世界

普通の高校生がこの世界でどのように生きていくのか
勇者の如く魔王を倒す？それとも普通に生活する？

男に生まれたからには一回ぐらい勇者に憧れるよね！－

というわけで魔王を倒すべく冒険がはじまつたのである

第一話・おこでませ異世界（前書き）

初めまして一ガ屋と申します

他の方が書かれている小説を楽し使てもらつて いる際に
自分で書いてみよう！と思ひ今回初めて小説を書かせていただき
ました

文章が拙い・内容が面倒くない等、不満に思われる点があるかと思
いますが最後まで読んでくださると幸いです

第一話・おいでませ異世界

俺はこの春にやっと高校生になった。自分で言つのもなんだが「ぐく普通の高校生だと思つ

名前：斎藤浩一 職業：高校一年生 これが俺のステータスだったそんな普通な俺は剣や魔法が存在するまるでゲームの中の世界に来てしまつたらしい…

今はラノマ国とか言ひの國の城下町をブラブラしている最中だ。周りからヒソヒソ声が聞こえてくる。俺のことをチラチラ見てくるあたり噂されているのは俺で間違いないのだらう

「おー…あいつもしかして…」

「ああ？あのガキがどうかしたか？」

「変な服着てるガキだなあ」

この世界に来て一日田といふことでビルのような巨大建造物の無い西洋風の街並みにはもう驚かない。いや、むしろレンガ造りの家が並んでいるこの世界の風景を元の世界よりも氣に入ったといつても過言ではないほどだ

しかし街を歩いているだけで聞こえてくるヒソヒソ声は別だ。何を言われているのか気になつて落ち着かないヒソヒソ声は更に耳に入つてくる

「何でも異世界から召喚された勇者様の一人だとか言つ話だぜ」

「ほほう、そいつはすげえ」

「やつ言われてみれば年の割には賃禄があるよつて見えなくもないな…」

そうだ、そもそも何で俺がこんなところに居るのかといひと…この世界に来た時のことを思い出す

そう、あれは一日前の事だ

その時俺はまだこんなふざけた世界には居なかつた。俺にとつて剣と魔法の世界なんてゲームの世界… そつRPGの中のお話だつた。その日は学校が終わつてバイト先の本屋に向かつっていた時のことだ。友達と話しながら歩いてたら途中で急に気を失つたんだ。んで気付いたらこの世界にいたというわけ

…わかつてゐるさ、凄い唐突だつたよ。普通違つ世界に飛ばされる時とかつて一悶着あつてからだよ。でもしようがないじやん、本当に唐突だつたんだからや…

…いや待つて！話は最後まで聞いて…ここからちゃんと一悶着あるからーあの、あれだよ… そう！ 飛ばされた先が神殿みたいなどこだつたんだよー！ な？ なんかありそうな感じだろ？だから話は全部聞いてけつて！

え？ 具体的に何があつたつて？ あー… 簡潔に言つと世界の平和が乱れつつあるので勇者を召喚してて、俺がそれだつたつてわけ。勇者だぜ？ 勇者。これはすごいよね。RPGで言う主役つてわけだよ！

当然魔王も倒すよ？ああ超倒すともー！」これで俺の凄さは十分に伝わったでしょー！ね？んじゃ、この話おしまい！

回想を終了した俺は再び街並みを見渡す。いつまでも昔のこと考へてるぐらいならヒソヒソ話でも聞いてたほうがマシってもんよ。そんなわけで人の話に聞き耳を立てつつ散歩を再開する

「あれが異世界から来たとか言つ子？」

「あの子なんか可愛くない？」

「可愛いよねー、守られるより守つてあげたい感じ」

まあなんだ、あれだね。慣れないといつても別に不快なわけではなくて悪い気はしないな。別に若い女の子に人気があるのを知つて聞いて上機嫌になつたわけではないよ。断じて違う、断じていやほんとね。むしろ硬派な俺としてはそんなの迷惑だし、人気が発展してファンクラブとか出来ちゃつたら対応に困るつて言つた生活に支障きたすかもしれないし…へへへ

なんて思いながらも表情には出さないように努力する。ここにいやけてしまつて引かれてしまつわけにはいかない、：まあ頬が少しゆるんでしまうのは仕方ない

しかし幸せな時間はあっけなく終了してしまう

「おーー！」ージー！昨日は寝れたか？」

後ろから男に声をかけられ不機嫌そうな顔で振り返る。俺を現実に引き戻した事に腹を立てているわけではない

「…こや、まあ普通に。つか何故ハイテンション?」

「だつてこれ完全ゲームの世界だべ? テンションあげるなとこいつほ
うが無理な話でしょ! うこー!..」

俺に話しかけてきたのは安部悠斗。学校がえりに一緒に歩いてたやつだ。中学のころから気が合ひ仲良くしてゐ、まあこんな世界と一緒に飛ばされてきてる辺りコイツと俺は腐れ縁つてやつなんだろうしかし…何故ここからはこの世界にこんなに適応してゐんだ、非常にウザい。不安とかないのかよ…知らない世界にいきなり来たと言つのにあまりにイキイキしてゐる事に違和感を覚えその辺のことを見
いてみる」とした

「あのーコートさん? 我々知らない世界に飛ばされてくるわけですかよね? 何でそんなに元気でいらっしゃるんでしょうか? 不安とかは無いんでしようか?」

「いや、不安だよ。不安もあるよ。でもつーーー!! RPGの中だぜ? 不安くくく越えられない壁くくくワクワク つて感じになつてさー!」

間違いない。ここつはバカだ。太鼓判とこつ名の烙印を押してやつていいと思つ

「帰る方法もわかんないんだぜ?」

「魔王倒したら帰れるつて神殿にいた巫女さんが言つてたじやん!..」

「!..」

あー確かに言つてたけど。巫女さん言つてたけど、そもそも神殿に巫女が居る時点でなんか胡散臭いんだよな。巫女衣装もコスプレみたいな安っぽい服だったし。どうせコスプレするならメイドとかしてくれよ。神殿にメイドってのがおかしいのはわかつてんよ? でもなんだよ巫女つて、巫女じやあ俺は萌えねーよ

とにかく巫女さんが色々話してくれて助かつたことは事実だ、ありがたい。この世界のこととか俺らのこととか。話をまとめてみると

「ようじや、ijiはラノマの国です」
「君たちは異世界からきちゃつたのです」
「二ホンから来たのでしょうか?」
「今までにも何人か来ている人はいるのです」
「元の世界に戻るには魔王を倒せばいいと思つのです」

だそうで、営業スマイル浮かべながら説明されたせいか、なんか説明が胡散臭く感じたんだよね。「質問は基本的に受け付けませんです!」とか言われたし

その後は俺が名前とか色々聞かれて外に追い出されたんだよな。出ていくときに金くれたから取り合はず宿には泊まれたけど…これからどうするかなあ…

なんて考えてる俺の横ではコートが「金髪碧眼美女サイコー!!なんかフラグ立つイベントとかねーかな??なあなあ」とか一人で騒いでる。コート今君は皆から痛いものを見るような眼で見られてるんだよ?

しかし…横でハイテンションになつてるとコートを見ていると色々考

えるのが馬鹿らしくなつてへる。いつなつたら開き直つたまつがこいのだらつか

「ハート… とりあえず魔王たおしてみるか」「モチ… ラララと云ふば魔王討伐でしょ」

いひして俺らの魔王討伐の冒険が始まった

第一話・おいでませ異世界（後書き）

初小説と云ふことで非常に苦戦しております
皆様から見て面白いのかな?なんて不安も非常に大きなものとなつ
ておりますので

誤字・脱字・またはアドバイス等ありましたら何でも言つてください
るようお願いします
今後も小説を書き続けていきたいと思つてるので
皆様からの声を糧により良い作品を生み出せるよう精進したいと思
います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6565m/>

凡人の冒険

2010年10月9日04時46分発行